「3+1プログラム」に関する意見交換会議事録

広島大学教職員組合 書記局 古川 (和田、古川のメモをもとに作成しております。)

日時:2016年11月15日(火)18:16~19:48

場所:東広島キャンパス 法人本部棟5階第2会議室

参加者:

(大学) 片山理事、眞田人事部長、三上服務GL、太呉服務 G主査、本田 WG 座長(国際 センター教授)

盛井隆国際部長、石野国際交流GL、吉盛国際交流副GL

(組合) 吉田(将)委員長、坂元副委員長、吉田(修)書記次長、青木執行委員、和田書 記次長、古川書記

【要旨】

- 2016 年 10 月 31 日提出の "広島大学 3+1 プログラム」に関する質問項目について"に挙げた 4 点について、石野国際交流 G L より説明があった。
- ・組合より、主に森戸高等教育学院の実体化の方針について質問を行い、国際交流 G より「平成 29 年度概算要求に予算化し、大学に提出済み。そのため、まずは実績づくりが必要と考えている。大学から、「今後は、国際室からの具体的な要望をもとに本部とすり合せを行ない、必要に応じて対応していく方針。」との回答を得た。

なお、組合からは、現状を鑑み、「事業実施主体の規模によっては、国際室だけでは収 拾できない。大学は早目の措置をするよう。」意見した。

【主な発言録】

(大学) 10/31 付けで受け取った質問項目の1) から順番に回答する。

質問 1) 7/28 付大学回答について

森戸教育学院については、ポータル的な位置づけという点は変わりない。名称を森戸高等教育学院に変更した。本プログラムについて、平成29年度概算要求を提出している。具体的な内容については、3+1作業部会で各種取り決めを行なっている。本部会の部会長は、国際・平和・基金担当理事。学生の所属は各部局。今年度は33名の応募があり、26名を受け入れている。その他、派遣元大学等詳細は別紙のとおり。

質問 2) 9/21 付理事(国際・平和・基金担当)決裁細則について

今年度も2名の3年生を受け入れている。理由は、派遣元大学で、4年次は卒論の関係で中国国内にいることが望ましいとの要望があったため。今後拡大していく中で、派遣元大学の方針と調整しながら類似のケースは発生すると想定している。

留学生の就学イメージは、学部4年生に広大の水準の高い教育を受けていただき、 大学院への進学を期待している。

また、受入までの流れは、第3希望までを確認し、選考を実施し決定している。 したがって、全く学生の意に沿わない結果になっているというケースは考えにく いが、教授会等で受け入れ不可となるケースは想定している。

質問3) 関係教職員、受入れ学生の様子について

関係各所にヒアリングを実施した結果は以下のとおり。

(教員)

- ・選考日程にもう少し余裕が欲しい。
- ・学生の質の低下を招かないよう、募集時の工夫を。

といった声があった。業務負荷については、特に今のところ聞いていない。

(職員)

国際部を中心に、関係部署での労働時間は確かに増えている。ただ、1年生の START プログラムや競争的資金など要因は様々。開設時にかかる負荷は一旦落 ち着いている。次年度募集にかかる負荷はまた想定されるが、それも一時的な ものとの認識。

(学生支援室)

新入生の一部としての取扱い。特に負荷はない。

(学生)

今のところ、トラブル等の報告はない。

質問4) 今後の受け入れ予定人数について

次年度は学長の方針もあり、100名受け入れの方針。

- (組合) 概算要求を提出とのことだが、具体的にどのようなプラン立てなのか。
- (大学) 人件費部分でいうと、常勤向けの振分け分はない。非常勤講師や職員に手当されるもの。今の国立大学の財政状況では、新組織を新たに立ち上げるということはできないため、検討部会等を設置し対応するという方針としている。
- (組合) 質問 1) で確認したかったことは、今後組織実体をもつ可能性があるかということ。現状の人員を維持したまま、受入れ人数だけを増やすのではマンパワーが足りなくなることは明らか。部局がすべてを負担する体制は無理がある。

提出した概算要求の詳細を見せてほしい。

- (大学) どのようにお示しできるかを確認する。
- (組合) 学生が学部に在籍ということは、編入学生のような位置付けになるのか?
- (大学)特別聴講生としての位置付け。編入というよりも、母校に所属したまま、広大に 授業料を払って来る。交換留学生とは異なる。広大での履修単位を母国の履修単 位に組み入れ、卒論は母国に提出する。
- (組合)とすると、広大の指導教員の位置付けは?
- (大学) 留学全般を指導する。生活、履修指導等。母国の指導教員と直接やりとりをし、 連携しながら進めてもらいたい。場合によっては、本学国際センターが行なうこ ともある。
 - (組合) HUSA の交換留学生との違いは?
 - (大学) 英語能力のみならず日本語能力が必要。また、4年次で卒論指導が含まれている かどうか。3年次受入れの場合は、学業成績を持ち帰る。
 - (組合) HUSA の場合、指導教員はいるのか。
 - (大学) コーディネーターがいる。
 - (組合) チューター、コーディネーター、履修指導者を兼ねるイメージということか。
 - (大学) 中国の指導教員は、日本に派遣される時点で決まっていないケースもある。その ため、卒論のテーマ決め等メインをこちらの指導教員が担うこともある。このプログラムの目的が、そのまま大学院に進学することを想定していて、卒論認定は 母国が行なうという仕立てにしている。

母国へ帰らない前提というのは、募集要項にも記載済み。広大で担当することになる教員には、その旨も伝えている。(現地に指導教員がいるかも含めて) -3 カ月、私費で研究生として在籍し、その間に大学院入試を受ける若しくは母校に帰るかだ。

- (組合) 実際、今年度どのレベルの大学を受け入れているのか。
- (大学) 今年度は、想定していた範囲で一定のレベルの学生を確保できたとの認識。
- (組合) 4年次からきて、学習を深めるのに十分な期間なのか。
- (大学)卒論認定という意味では足りないかもしれないが、認定は中国で行なうこと。
- (組合) 研究指導とは、具体的にどんなことか。
- (大学) 学部によって、卒論認定と研究指導を分けていると思うが、このプログラムでは、研究指導はこちらで行なう。卒論認定は中国で認定するため、卒業単位が足りていれば卒業はできるという仕組み。ただ、こちらで研究指導が不可になることもあり得る。その場合は、このプログラムは修了したことにならない。履修単位は国際センターが管理し、最終的な認定は各部局が行なう。
- (組合) 森戸高等教育学院ではなく、各部局、各教職員にすべての負荷がかかる体制では、 今後人数増えたときに対応できない。森戸高等教育学院の実体化について説明が

欲しい。

- (大学) 実績をつまないことには先に進めない。ある程度実績を積み、形がみえてきたら順次必要な手当をしていくという考え。 国際室からの具体的な要望との摺合せが必要。すべてこれからの話。人員措置に
 - 国際室からの具体的な要望との摺合せが必要。すべてこれからの話。人員措置についても、現状のままで続けろということは言っていない。実態に即して順次考えていく方針。
- (大学) 国際室が何をどのようにしたいのか。建物か人かバーチャルか学院長がいるのか のプランニングを。
- (組合) 学長の号令でやっており、事業実施主体の規模によっては、スクラップ&ビルド も必要とのこと。国際室ではおさまりきらない。早目の対応を。
- (組合) 留学生の立場も考え、来てよかったという内容になるよう、受入れ体制は慎重に 運んでもらいたい。